

チェンジリーダーとなる

PF ドラッカー氏の著書「プロフェッショナルの原点」発行 2008年 2月 15日より ご紹介いたします。

あらゆるものに、廃棄すべき状況が少なくとも3つある。(154p)

チェンジリーダーたるためには、すでに行っていることを体系的に廃棄しなければならない。
第一に、製品、サービス、プロセス、市場の寿命がまだ数年はあると言われている状況では廃棄が正しい行動である。
第二に、償却済みを経済的理由として維持されている状況では廃棄が正しい行動である。
第三に、これから成功させるべき製品、サービス、市場を邪魔するようになった状況では廃棄が正しい行動である。」

「イノベーションはもちろん、新しいものはすべて予期せぬ困難にぶつかる。その時実証済みの能力のある人材のリーダーシップを必要とする。

優れた人材が昨日に縛りつけられていたのでは、彼らを活躍させることはできない。」

『明日を支配するもの』

集中における第一の原則は、生産的でなくなった過去のものを捨てることである。そのためには自らの仕事と部下の仕事を定期的に見直し、まだ行っていなかったとして、いまこれに手をつけるかを問うことである。答えが無条件のイエスでないかぎり、やめるか大幅に縮小すべきである。もはや生産的でなくなった過去のもののために資源を投じてはならない。第一級の資源、とくに人材という希少な資源を昨日の活動から引き揚げ、明日の機会に充てなければならない。」

『経営者の条件』

「リーダーにとって重要なことは、どこで止めるかである。特に問題となるのが、あと一押しでうまく行くと言われているものである。」「リーダーシップを語る』

とるべき行動

陳腐化しつつあるもの、価値を生み出さなくなったもの、明日を邪魔するようになったものを見つける。
いま行っているものは、新たに始めるべきものばかりか？

身につけるべき姿勢

あらゆるものについて廃棄のための実行計画を作成する。

<経営のヒント>

PPM (プロダクト・ポート・フォリオ)分析・6

…これを体系的に活用できるか？

製品・サービスだけでなく、経営資源をすべてこれに当てはめてみることで。

つまり 人材、資金 (お金)、時間、顧客 … などです。

それを、一年前と現在、現在と1年後・3年後と予想して比べることで。

すると、明日の機会に … 重要な経営資源を投資しているかどうか？ 明確になります。